

令和5年度 津山市地域創生推進会議（経済分科会）

議事概要

【開催要領】

- 1 開催日時：令和5年7月10日（月）14：00～15：30
- 2 場 所：津山市役所 2階 第1委員会室
- 3 出席者：

会 長	中村 良平	岡山大学大学院特任教授
委 員	松田 欣也	津山商工会議所会頭
委 員	田村 正敏	作州津山商工会会長
委 員	松岡 裕司	津山市観光協会会長
委 員	西川 潤	晴れの国岡山農業協同組合津山統括本部本部長
委 員	稲垣 知成	日本政策金融公庫津山支店支店長
委 員	今田 文隆	中国銀行津山支店次長
委 員	坂手 哲也	津山信用金庫常務理事お客さま応援本部本部長
委 員	前川 真一郎	山陽新聞社津山支社支社長
委 員	福田 邦夫	津山朝日新聞社代表取締役
委 員	小宮 克仁	株式会社 テレビ津山代表取締役社長
委 員	福田 直樹	津山市森林組合参事

【議事次第】

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ
- 4 会長あいさつ
- 5 協議事項
 - (1) 第2期「津山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」実績報告について
【資料1、2-1、2-2、2-3】
 - (2) 第2期「津山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の改訂について 【資料3】
- 6 そ の 他

【概要】

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ
(市長)

地域創生推進会議を開催しましたところ、ご多忙のところお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

週末から、随分雨の心配をされたところでございます。幸いこの地におきましてはまだ災害に至るような雨量とはなっておりませんが、備えあればということもでございます

し、しっかりと災害対応をすべく準備を整えてまいりたいと考えているところでございます。

現在、令和2年に策定をいたしました第2期総合戦略を推進しながら、地域創生と人口減少の克服に向けて、各種政策を進めているという状況でございます。施策を進めているとは言え、なかなか現実に結びついていないところがございます。しかしながら、これで歩みを止めるわけにもございませんで、もっともっと効果のある施策をしっかりと進めていかなきゃならんと。このように、意を強くしているところでございます。

地方創生といえるかどうかという観点がございますが、最近の皆様方のご支援によりまして、津山市がマスコミに取り上げられる機会も随分増えております。大変うれしく思っているところでございます。しっかりとそういった歩みを止めることなく、進めてまいりたい。このように考えておりますので、どうぞ本日いろんなご意見を頂戴し、今後の地域創生をしっかりと進めていく上での参考とさせていただき、取組を進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。お忙しいところ、ご出席をいただきまして、ありがとうございました。

4 会長あいさつ

(会長)

日本全体として人口が増えない、出生者数が亡くなる方を下回ってる、もうどうしようもない状況がずっと続いています。でも、まちとしては出生者数も増やしたいし、社会増も増やしたい。何とか社会増減も含めてプラスマイナスゼロを目指して、人口減を最小限にとどめていかないと、どんな施策を立てても人口が減ってくると需要が減りますので、経済全体がしぼんでしまいます。津山市も中心市街地で、いろんなプロジェクト、いろんな計画を実施しています。中心市街地で新たな企業を新たな産業、新たな人が集まってきて、それが周辺に波及していくということが非常に大事になってくると思います。

人口の減少というのは、高校卒業した時点で市外県外へ転出していく子供が多いことが要因の1つです。2014年の地方創生が始まった頃に、福井県鯖江市でJK女子高生課をもじってJK課を作って、自分達で頑張ってる市民役のまちづくり条例を作ったり、いろんな活動を繰り広げて、毎年毎年ローテーションで卒業していった人と入ってくる人があって、随分その街中が、活気づいてきたということがあるんです。その証拠として、2017年総務省のふるさとづくり大賞の総務大臣賞を受けております。そこでJK課に入ってきた女子高生が卒業して、やがて市役所に就職してくる子も出てくるんですね。あるいは、県外の大学に行っていた子が帰ってきて鯖江市役所に就職すると。いやこれは非常に素晴らしい効果だなと思っています。非常に良い取組なので、ぜひ津山市も同じような立ち位置にあるまちとして、そういったことも参考にして頑張っていたいただきたいなと思っております。

5 協議事項

(1) 第2期「津山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」実績報告について

【資料1、2-1、2-2、2-3】

～事務局より資料説明～

会 長： どなたからでも結構ですので、ご発言をお願いしたいと思います。

委 員： 事業承継のことで我々結構頑張っております。商売を続けたくても後継者がいないから、廃業するんだと言う人がおられると思います。例えば、津山市のどこかで起業したいという話があったとき、自分のニーズに合った廃業される人の紹介を進めており、段々と問い合わせが増えたり、希望者登録が増えていると聞いております。

移住される人とか、移住して創業する人も結構増えてきたんですが、津山市では起業に対する補助金対象に業種を絞られています。現実とそぐわないのではないかと。例えば、奈義町は創業補助に300万、店舗改装にもいくらか補助が出たりいろんなことを取り組んでいる。美咲町も幅広い業種を対象にして取り組んでいる。もう少し業種を幅広くするとかいう考えはありませんか。

事務局： 幅広い創業と創業関係の支援に関しまして、津山市にはつやま産業支援センターという事業者を支援する組織がございます。新規性や独創性、優位性のある事業を対象として、ここに特に注力をして、伸びてくる事業に目を向けた取組に主眼を入れております。

ただ一方で、幅広くという考えもあり、その点については、例えば新規の創業だとか、特に独創性にこだわるのではなく、そういったものでなくても、産業支援センターのサポートや連携機関として、商工会、津山商工会議所、それと岡山県の産業振興財団などの創業支援制度のご紹介等をしておりますので、今いただいたご意見を参考に、今後しっかりやっつけようと思っております。

それから事業承継については、M&A等、岡山県の産業市振興財団などの連携機関にお繋ぎする、あるいは産業支援センターでできる取組についてご相談に乗るなどの取組を継続しております。こちらについても今の企業動向について、特にM&Aも含めて大変厳しい状況にあるということは重々承知をしておりますので、しっかりと取り組んでまいりたいと思っております。

委 員： 社人研の発表したデータよりも早いペースで人口が減っています。現状認識をその都度その都度毎年見直していかないといけないと思う。今度会議があるときには、現行のまま推移したらこうなりますと示してほしい。将来推計が、どんどん今変わってきている。現状のことを我々にも議論する場合に、教えてもらいたいと思います。

津山市の地域経済循環分析、これも経産省のホームページから、誰だってダウンロードができる。津山市の経済循環率は、85.2%しかない。稼ぐ力以上に、外へキャッシュアウトを起こしている。工業誘致だって、本社が都市部にあるところを幾ら誘致しても、全部お金は、他都市の本社に吸い上げられてキャッシュアウトしている。例えば公共工事を出しても、やってる業者は他都市の業者で、全部キャッシュアウトしている。

KPI値も年度ごとに、見直すべきだろうと思う。第2期が終わるまで、この目標でいくんだってということじゃなくて、RESUS（リーサス）をぜひもっと活用して、目標値を変えてもらいたいと思います。

事務局： まず人口の推計がどんどん動いていて、これをどういうふうに捕捉をしていくかということでございます。

状況が変われば、もちろん我々も総合戦略を立てた時の基礎となっている状況も変わっております。推計値もおそらく今すると変わってくるというのは当然想定されます。我々としても、現状についていかに実態を把握して、政策議論に生かすためにも、見える化・可視化をしていく作業をやっていかないといけないという認識に強く立っております。総合戦略の現状の取組は、令和6年度までが計画期間になっておりまして、次に向けて準備を進めていかないといけないと思っておりますので、人口推計も含めてリアルに今の現状がどうなのかというのが把握ができる体制、ノウハウを習得しながら、そういったものを作っていきたいと思っております。

我々が今年度導入しようとしておりますスマートシティ構想のデータ連携基盤を、どんどん民間の事業者様にも活用していただく中で、津山市の経済の流れがどういうふうになっているのかということも、精密に把握ができるような仕組みを導入をしていきたいと思っております。

まだまだ課題もたくさんございますけれども、実態を正確に捕捉するための仕組みというのは徐々にまとまりつつありますので、こういったものを活用しながら、新しい取組についてもチャレンジをしていきたいと思っておるところでございます。

委員： 令和6年の、次のやり替えのときに考えますっていうのは決していいものではないので、よく検討してもらいたいと思います。

お金をこの地域に残していくためにはどうするのかという発想を、今からでもすぐ取り入れることだというふうに思うんです。でも、そういった発想の転換も6年まで待ってください、次の時にやりますからでは、世の中の変化についていけないのではないかということになると思うので、そういったところは見直してもらいたい。これは意見にとどめます。

委員： 先ほど、循環率85.2%とありましたが、この地域のどの産業、どの業種が稼いでいるか、どの業種が外にお金払っているか、実は全部出ている。そこの比較をした中で、業種を見ていけばいい。やはり、そういうことをやっていかないと、なぜ減るのとか、そういうことを知らないとなりの入れようがない。

前回のQ&Aに対する回答も、資料を提示するだけではなくて、この内容について説明して欲しい。例えば脱炭素などを見ても、これも具体的な回答がない。津山市もたくさん資料を作っているが、いつ頃までに何をやるのかというのが見えない。そこを改善して欲しい。

津山市の脱炭素戦略もどういう風な戦略を立てるのかなっていうのが、まだ我々、企業、市民にはまだわからない。こういうのもどんどん出して欲しい。ロードマップの話もそうですが、見えないから全体像がわからないし、今の辺にいるのかがわからない、というところがちょっと残念なんです。

高校生ぐらいから上のレベルの方々には、きめ細かく、津山市のやろうとしていることを説明していく。市民もそれで理解して、津山市が今何をやろうとしているのかっていうことが、幅広く、この地域の人たちに共有化されていくと思う。

委員：冒頭市長から、地域創生といえるかどうかというような前置きがあった中で、マスコミに取り上げられる機会が増えてるというところの一端には肉文化というところは強く感じておるわけですが、やはり、まだまだつやま和牛の位置付けといたしますか、どういった形で売っていくのかというのがまだ見えてこない。今こうやって、マスコミに取り上げられてるタイミングだからこそ、つやま和牛を売り込むタイミングなんじゃないかなっていうのを個人的には強く思っております。そういった中であまり頭数が確保できないのであれば、希少価値が高いというような売り方もあるでしょうし、いやいやそうじゃなくてもっと頭数を増やして販売を増やしていくというのであれば、マップを作って観光客の方にアピールしていく、そういったことをもっと進めていただければ、こちらの方も意味武器になるのかなといったところがございます。

また津山城に関しましても、さらなる観光客を増やす方策を、今のままでいくのか、また全部ちょっと立ち消えています、天守閣の再建といったところをもう一度考えるのか、また、以前は、国宝である刀の三振りが、津山藩にあったとか、そういった歴史がありますので、その三振りを津山に集めて展示というのは無理にしても、そういったものを目玉に集客を図るといったような考え方もちょっとありではないのかなとも思いましたので、意見として申し上げます。

特につやま和牛の方につきましては、また今後、市場が望めると思いますので、いろいろとご意見をお聞かせいただきたいと思います。

(2) 第2期「津山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の改訂について【資料3】

～事務局より資料説明～

会長：皆さんが考えている間、今までの委員の方の質問に対して、私からコメントを申し上げたいと思います。

人口統計とかいろんなものを市の中で内製化ができないかというお話ですけども、私自身総務省統計局の統計大会（Data StaRt Award～地方公共団体における統計データ利活用表彰～）の審査員をやっているのですけれども、必ずしも県が優秀賞を取るわけではなくて、市町村も取っているんですね。今までだと、静岡県が健康寿命について調査をし、それを生かして健康寿命を伸ばし最優秀賞、総務大臣賞、最近では、長崎県が大学と一緒に、高校卒業した高校生が県外に出ていく要因分析、調査をして優秀賞を取ってます。あと空き家の分析をして和歌山県の他に神戸市や横浜市なども賞を取ったのですけれども、必ずしも政令指定都市だけではないところでも、佐賀市や津山市と人口が変わらない岐阜県関市なども、内部で勉強会をしたり大学と一緒に人口予測や、いろんな今後の動向について予測するというEBPMの内製化をやっていました。

統計大会で過去最優秀賞やいろんな賞を取ったところは、全部総務省のホームページに出ていますので、それをご覧になると各市町村がどんな統計的な取組をされているのかがわかります。

https://www.stat.go.jp/info/guide/rikatsuyou/index_2022.html

それから、さっきお話のあった産業別の域際収支の話は、実は私何度も津山市について推計したことがあって、古くは2004年の日経新聞経済教室に津山市を例にとって産業別の域際収支を産業連関表から作って紹介しています。産業連関表を作らないと産業別の域際収支は計算できなくて、これはRESAS（リーサス）では別の形で推計しています。空間的な人の動線に関するデータもあります。

先ほどお話あった一番新しい令和3年、2021年の経済センサスの活動調査というのは、つい最近、e-Statに出ています。これをご覧になると、市町村単位の統計が出ていますので、それで比較されたらいいかなと思います。

委員： つやま産業支援センターによる包括的な産業支援で、いくつかの項目取組があるんですけども、先ほど少し触れていた事業承継の話で、我々もここ数年事業承継に取り組んでまいりまして、登録者数、売りたい買いたいという事業者さんが徐々に増えてきている状況です。

一つ実際にあった事例としましては、特に事業が承継されない理由に、利益が出ていないというところ、普通考えればそういった事業を買う人はいないんじゃないかという認識だったんですけども、実際に引き合いがあったのは、利益が出てなかった企業さんでもありました。というのはやはり、買い手の事業の展開の中でこの地域でこういった企業さんを買いたいってニーズがあったというところですね。そこに大きな誤解があったので、まずは高付加価値化を支援していつからM&Aをしますという話も、そういうストーリーばかりではないのではないかと思います。

それ以外にも、新規性とか高付加価値を生み出す企業さんの支援に特化してるようなコメントなり施策が多いなという印象がありまして、我々もそういったベンチャー企業さんへの支援というのは中にはあるんですけども、大半は生活に密着した家族が生活できる事業の支援が大半なので、そういった企業さん、個人事業者さんに何かのバックアップが十分できているかどうかというところで、この補助金の対象業種の見直しとかも含めて考慮いただきたいなと思います。

例えば家族で移住する飲食店の方が、1家族でも来てもらえば、その子供は学校に行って地域にまた生活して、そういった情報がSNSに上がって、じゃあうちもその地域に移住を考えてみようかと、そういった波及効果もあるんじゃないかなというふうに考えます。

委員： 86ページから88ページ、安全で安心して暮らせるまちづくりのところですかね。この地域の地震確率は本州で一番低いということで、この地域の特徴というものをとらえて、災害に強い、こういうコミュニティというものを自立化のための地域を日本全国作っていくことが今後の構造対策なのかなと思う。そういうことが本当に言われてる時に、あんまり誰もそういう危機感を感じてない、この地域には来ないだろう、自分には来ないだろうと。そういうことでいいのかなって思うんです。

だから、やっぱり行政の方というのは、災害時の情報伝達手段の整備とかいろいろ書いてありますけれども、今こちらに住む施設の高齢者、あるいは独居の方とか、そういう方々って本当に、そういう災害対策ができるんだろうか。もう少しそこは行政として、やらなきゃいけない時期なんじゃないかなというふうに私

は思います。

委員： どんどん追加されていくことはとてもいいことだと思うし、新たなことにどんどんチャレンジされる津山市であってほしいなと思うんです。

大人を目線と、子供たちの目線っていうのは実は全然違って、求めるものも違う。大人は人口増やすんだったらマッチングの機会だと、地方都市はみんな一生懸命マッチングをやっているけど、なかなか成就しない。そういうことじゃない。男性が流出すると女性が流出するのと言ったら、もう明らかに今女性が流出している。また、女性の人口もどんどん東京首都圏へ行っている。じゃあ、その人たちがなんで出て行くのって。

例えば東京に行ったら、給料が高いんです。今Z世代ってものすごくドライで、休みが何日で給料が幾らと、津山圏域の県立学校で求人票が高校に貼られた瞬間に、2万3万違ったらもう出ていっちゃう。それを君ふるさと大事だろう、津山大事だろうと言っても、もう止まらないような状態になっている。

47都道府県で所得の順位が、第47位が沖縄県、東京首都圏第1位なんだけど、これを可処分所得に置き換えると、沖縄が第1位になる。可処分時間までを置き換えると、自分の時間って、例えば東京の人は仕事行くのに1時間半から片道2時間も拘束されて、自分で使える時間がない。津山に住んだら自分に使える時間だらけだよ。これをもっと前面に出せばいいと思う。子供たちが、実際若い人たちが地域に求めることを。

おっちゃんお婆さんの発想だったらオープンファクトリーで、地域のことを知らないから子供たちが出ていくんだって、この間まで言ってたんだけど、地域の事知らないから出ていくとかっていうようなことじゃなくて、その人たちが実際に求めているもの、求める点を、もっとアピールしないと人口なんて増えないんじゃないかなと思う。

婚活だって、隣の町がやってるからって全然効果出てないことを追っかけても仕方ないでしょう。こんなのをどんどん改めないといけないんじゃないかなと思います。

6 その他 なし

7 閉会

(政策推進監)

本日は令和5年度津山市地域創生推進会議の開催にあたり委員の皆様におかれましては、終始ご熱心にご議論いただきまして誠にありがとうございました。

本日、委員の皆様から様々なご意見やご提案いただき、それらを踏まえ今後の本市の総合戦略の改定や、政策推進、地方創生の取組に生かしてまいりたいと思います。

以上をもちまして、津山市地域創生推進会議を閉会とさせていただきます。

ありがとうございました。